

「おんだし」とはどこ

原田 弘

地名には、みなそれぞれ歴史があり意味合いがあります。ここにかかげた「おんだし」など、どの地図を見ても書かれていません。地図に書かれる地名、つまり地域の中の人々しかわからないとも思われます。

ではこの「おんだし」とはどこでしよう。つまり五日市街道が青梅街道へ合流する、深沢ビルの処です。「おんだし」とはつまり「押し出し」の意味なのです。

江戸時代五日市街道は、この奥地に大宮前新田をはじめ関前、小平など多くの新田が開発されました。そのためこの地の農作物など江戸へ運搬する道路として整備されました。だが運ぶ為には大変な労力が必要でお百姓の家族など手伝つて青梅街道まで運び押し出した処なのです。

五日市街道も江戸時代、明治、大正の頃まで道も狭く、ことに善福寺川の尾崎橋辺は七曲りといわれ、道の曲がりが多く物を運ぶ人々は大変難儀したことです。

しかし杉並にもまだこんな「おんだし」と呼ばれる処はこの他三ヶ所ありました。それは成田東四丁目の田端おんだし、上荻一丁目タウンセブンの西側にあつた観音おんだし、それに上荻四丁目の保久屋おんだしなどがあります。

それでこの梅里の一丁目二丁目境いの地を「馬橋おんだし」とこの地域の人々は呼んでいたものです。

この五日市街道はここから五日市



馬橋おんだし
青梅街道と深沢ビル（左）
脇道の奥は五日市街道



五日市街道の尾崎橋
青梅街道に向かう上り坂

「おんだし」とはどこ

原田 弘

ではこの「おんだし」とはどこでしよう。つまり五日市街道が青梅街道へ合流する、深沢ビルの処です。「おんだし」とはつまり「押し出し」の意味なのです。

江戸時代五日市街道は、この奥地に大宮前新田をはじめ関前、小平など多くの新田が開発されました。そのためこの地の農作物など江戸へ運搬する道路として整備されました。だが運ぶ為には大変な労力が必要でお百姓の家族など手伝つて青梅街道まで運び押し出した処なのです。

五日市街道も江戸時代、明治、大正の頃まで道も狭く、ことに善福寺川の尾崎橋辺は七曲りといわれ、道の曲がりが多く物を運ぶ人々は大変難儀したことです。

しかし杉並にもまだこんな「おんだし」と呼ばれる処はこの他三ヶ所ありました。それは成田東四丁目の田端おんだし、上荻一丁目タウンセブンの西側にあつた観音おんだし、それに上荻四丁目の保久屋おんだしなどがあります。

それでこの梅里の一丁目二丁目境いの地を「馬橋おんだし」とこの地域の人々は呼んでいたものです。

この五日市街道はここから五日市

まで四十二キロメートル約十里余りでその名もいろいろ場所によつて砂川道・青梅街道脇みち・青梅街道裏道・小金井道・長新田道、そして五日市道などと呼ばれていた時もあります。

「都發行の歴史の道調報告書 五日市街道」にはこのように記載されていますし、特に江戸時代後期は相当量の木炭を江戸へ供給していたそうです。物の本では、五日市街道は甲州、青梅両街道ほど重要ではなかつたということです。

火事は昭和二年に隣家など二十七軒が焼け、昭和五年には西側の料亭「大つた」を含め五軒、そして昭和二十年五月の大空襲では隣家から東方一帯が焼けてしまいましたが、柏屋だけは不思議とこの空襲火災からも焼失をまぬがれた幸運なお店だったと生前の柏屋さんが当時の森泰樹会長に語っていたそうですが、柏屋も店も当主も今はなくなり寂しい限りです。

*この頃読者からのリクエストによるものです。

火事は昭和二年に隣家など二十七軒が焼け、昭和五年には西側の料亭「大つた」を含め五軒、そして昭和二十年五月の大空襲では隣家から東方一帯が焼けてしまいましたが、柏屋だけは不思議とこの空襲火災からも焼失をまぬがれた幸運なお店だったと生前の柏屋さんが当時の森泰樹会長に語っていたそうですが、柏屋も店も当主も今はなくなり寂しい限りです。

落穂拾い

妙法寺門前の火災など

妙法寺門前に江戸時代からつい最近まで続いていた名物せんべい屋「六代目柏屋七兵衛商店」の大高錢三さんのお話によると、

門前町にしばしば火事があり、そのたびに柏屋は、運良く焼失をまぬがれたとのこと。それも妙法寺からいた「火防せぎ御札」が張つてあつたと言うことです。

原田 弘 氏

杉並郷土史会会員・杉並区文化財保護指導員・日本ベンクラブ会員

次号150号は
9月20日
発行予定です